

## 31. 臨海工業都市空間におけるレクリエーションについて

- 横浜市京浜臨海部におけるレジャー空間・福利厚生空間の展開を中心に -

A Study on the Recreation in the Urban Industrial Waterfront Area

- Focused on the development of the Leisure Space and Welfare Space in Keihin Waterfront Area in Yokohama City -

野原 卓  
Taku Nohara

In the age of population declining in Japan, how to regenerate the urban developed space to make compact city is the important topic to consider. One of the biggest industrial waterfront area in Japan, "Keihin Industrial Area," is still active, but gradually declining, so we have to think the regeneration of these brown-field area. Before WW II, industrial spaces and amusement spaces were put together in the Keihin Area, but after the WW II damage, mainly factories and these welfare institutions were increasing in this area, instead of amusement space. In the 1970's the welfare spaces were provided around the Industrial Area, but recently these are diminishing and only remain in the Industrial Area. these spaces in the area are useful with the modification of management system to regenerate the Waterfront Area for the worker's life and local people's activity.

*Keywords:* industrial area, industrial city, Keihin waterfront area, recreation, welfare,  
工業地帯、工業都市、京浜臨海部、レクリエーション、福利厚生

### 1. 序

#### 1.1 研究の背景と目的

人口減少時代を迎えた現代日本において、効率的な都市空間の再構築が必要となる中で、新規都市開発以上に、既開発空間の再編が急務となっている。一方、近代化以降、特に高度経済成長期に発達した我が国の臨海工業地帯は、産業構造の変革や経済状況の変化に伴い、衰退や活力低下が顕著であり、再生を要するものの、完全に機能が停止したわけでもなく、今後のあり方が模索されている。また、工業都市空間を生活・環境という側面から見ると、密度は低いながらも従業員が活動しており、一定の環境担保が必要とされると同時に、将来的にコンパクトな都市空間を実現するためには、従業員以外の来街者を含めた、市民のウォーターフロント<sup>(1)</sup>として再編することも期待されている。

かつての工業都市空間では、交通技術の制約も手伝って職住近接が実現しており、従業員の福利厚生空間も近接していたと同時に、現在のような厳格な用途区分がなされていないこともあり、工業地帯内部や周辺にレクリエーション空間が存在していた。また、現代都市計画の展開の中では、工業都市空間が詳細に検討されることは少なく、実際には、各工場や企業が独自に展開してきたのが現状である。

そこで、本稿では、市街地に近接して発達した代表的な臨海工業地帯の一つである京浜臨海部におけるレクリエーション空間<sup>(2)</sup>の実態を施設の変遷を通して明らかにすることで、都市におけるレクリエーション空間の役割とその変化を把握するとともに、生活・活動環境の側面から見た工業都市空間再編に対する示唆を得ることを目的とする。

本稿では、京浜臨海部<sup>(3)</sup>のうち、横浜市京浜2区(鶴見区神奈川区、以下、横浜市京浜臨海部)を対象とし、そのうち工業に特化したエリアを京浜工業地帯内部<sup>(4)</sup>とする。

#### 1.2 既往研究及び研究の方法

工業都市空間に関する研究としては、特に、企業城下町における福利厚生施設整備について、篠部<sup>(5)</sup>、砂本<sup>(6)</sup>、藤村<sup>(7)</sup>、社宅研究会<sup>(8)</sup>等による論考において、都市形成史的な観点から整理されている。京浜臨海部に関しては、給与住宅・企業住宅等に関する研究<sup>(9)(10)</sup>がある。また、京浜臨海部における機能転換に関する研究<sup>(11)</sup>では、福利厚生施設の大まかな分布について触れられているが、本稿では、1950年代から2009年に至るまでの経年的変化、および、京浜2区との比較を中心に詳細な分析を行うものとする。

研究の方法としては、地域誌<sup>(1)(2)</sup>、京浜工業地帯立地企業の社史<sup>(3)(4)(5)(6)(7)</sup>、新聞記事等を用いて歴史の変遷を整理した上で(第2章)、戦後のレクリエーション施設分布とその変遷(第3・4章)については、住宅地図<sup>(12)</sup>を中心に詳細に調査し、地形図や市街図、および現地踏査・企業情報等によって現況を確認することとする。

#### 1.3 京浜臨海部の背景と変遷

国内有数の大規模工業地帯であり、中でも古い歴史を有するものの一つである京浜工業地帯は、かつて、風光明媚な砂浜及び漁村の広がっていた京浜臨海部に位置しており、明治末期に始まる民間実業家による埋立、特に、大正期以降の浅野總一郎による鶴見・川崎地先埋立事業を経て発達した工業地帯である。これらの開発は、一時期にまとめて行われたのではなく、時代ごとに少しずつ埋立を重ね、1990年に大黒埠頭が完成するまで、約100年にわたり継続的に開発されてきた。特に、戦前期を中心に、民間の手によってインフラ整備(鉄道網や道路等)や埋立、施設整備がなされ、これが今でも都市基盤として受け継がれている点は、行政が一時期に基盤整備を行う工業団地とは異なっている。

## 2.京浜臨海部における戦前期レクリエーション施設の展開

京浜臨海部が工業空間として発展するのは、明治末期以降であるが、工場が公害施設として認識されていない工業化初期である戦前期の時点では、京浜臨海部は、工業空間だけでなく娯楽空間としての可能性も有しており、工業空間とレジャー空間の両者は共存していた。当時、工場の福利厚生施設はまださほど成熟しておらず<sup>(13)</sup>、むしろ、民間鉄道経営を媒介にしたレジャー空間開発が展開されていた。

### 2.1 観覧鉄道としての京浜電気鉄道とレジャー開発

京浜臨海部における観覧空間としてのポテンシャルにいち早く気づき、これを事業化したのは、京浜電気鉄道株式会社である。同社は、川崎駅から参詣地である川崎大師へと至る<sup>(14)</sup> 大師電気鉄道株式会社(1897年)<sup>(15)</sup>を経て、1899年、京浜電気鉄道として京浜間の鉄道敷設に着手し、川崎大師と同じく信仰を集めていた穴守稲荷への足として、蒲田一羽田間の特許を受けている。ここに、東京・横浜から川崎大師・穴守稲荷という庶民の二大観覧(参詣)地に観覧客を呼び込む、近郊参詣路線としての鉄道経営方針が伺える<sup>(16)</sup>。その後、同社は、沿線において自らレジャー施設開発に着手し、運動場(羽田運動場)や海水浴場(羽田、大森、新子安)、遊園地(大師公園、花月園)などのレクリエーション施設事業を展開して、観覧鉄道としての性格を強めた<sup>(17)</sup>(表1)。東京近郊の私鉄沿線の多くが郊外住宅地開発を行う中、観光開発を中心に展開している点が特徴的である。なお、その後の沿線は、臨海部の郊外住宅地としても位置付けられ、民間住宅地開発も進められている<sup>(18)</sup>。

特に、京浜電気鉄道は、臨海工業地帯の先に広がる「臨海部」を最大限に活用したレジャーである、海水浴に着目している。京浜臨海部における工業化初期段階において、実業家守屋此助の埋立によって誕生した守屋町地先は、産業用地として竣工したものの、工場進出は遅れ、低・未利用地となっていたが、1909(大正8)年、京浜電気鉄道は、遠浅の海が広がる守屋町地先(神奈川区)に新子安海水浴場をオープンさせた。夏季には、海水浴場に向けて設けられた京浜電気鉄道新子安駅から海水浴場へと向かう沿道に露店や割烹旅館が並び<sup>(19)</sup>、京浜電鉄も臨時ダイヤで運行するほど、多くの海水浴客で盛り上がりを見せた。その後、周囲が工業化するに従い、タンクや船からの油漏れ、工場廃液等による水質汚濁が激しくなり、閉鎖に追い込まれた。

表1 京浜電気鉄道によるレジャー開発事業

| 年     | 遊覧施設      | 備考                        |
|-------|-----------|---------------------------|
| 1907年 | 大師公園の開園   | 1886年に深瀬隆健により創設された庭園の拡張計画 |
| 1909年 | 羽田大運動場    | 1912年には運動場内に遊園設備を設置       |
|       | 大森海水浴場    | 報知新聞社と東京毎日新聞社の協力          |
|       | 新子安海水浴場   |                           |
|       | 羽田海水浴場    |                           |
| 1911年 | 直営羽田遊泳場   | 直営事業として展開                 |
| 1912年 | 大師遊園地     | 大師公園のさらなる拡張               |
| 1914年 | 花月園前停留場設置 | 同年開園の遊園地との連携              |

(注: 参考文献 4)より作成)

### 2.2 鶴見臨港鉄道のレジャー開発

その後、多くの民間実業家や、浅野總一郎による埋立(鶴見一川崎地先埋立)が進展し、工場進出が盛んになると、物資の輸送網が課題となる<sup>(20)</sup>。浅野をはじめ、進出企業(日本鋼管、芝浦製作所、日新製粉等)が発起人<sup>(21)</sup>となり、1924年には、各工場への陸上運輸連絡を目的として、「鶴見臨港鉄道株式会社」が設立された。当初、貨物専用線としてスタートしたが、従業員等の足として旅客輸送化が図られ<sup>(22)</sup>、1940年には、鶴見-扇町間全路線の貨客電線輸送が実現した。さらに、同社は、これにとどまらず、臨海部の大規模敷地を活用したレジャー空間整備にも着手している。

1) 扇島海水浴場: 1930(昭和5)年ごろ、鶴見臨港鉄道株式会社は、京浜運河開削時に防波堤奥に投棄された浚渫土砂によって形成された砂浜<sup>(23)</sup>に、海水浴場経営を計画した。1931年、鶴見臨港鉄道武蔵白石駅-渡田駅間に、夏季限定の海水浴前停留所が設けられ、竹之下橋渡船場から扇島海水浴場まで船が用意された。海水浴場には、鉄道会社により、巨大な海の家を始め、ビーチパラソル・マット・テント等のサービスが加えられ、1935年には17万7千人が訪れている<sup>(24)</sup>。当時は、工場周辺の水質も良く、京浜工業地帯も「モダン」なモチーフとして肯定的に捉えられていたとされている<sup>(25)</sup>。

2) 臨港大野球場とスポーツセンター構想: 1931(昭和6)年には、鶴見臨港鉄道の手により安善町(鶴見区)に臨港大野球場が開設されている。工業地帯内企業の対抗野球大会や、各社や学校、町内野球チームの試合、練習に利用されたほか、希望者に有料で貸球場としても利用されていた<sup>(26)</sup>。1931年4月28日付の『横浜貿易新報』には、「当球場は何分草創のことであり、スピード工事であったが為観覧席其他各種設備に於て不充分的点もありますが、総面積一万坪、競技場面積約四千坪に及び、光線の方向と地固め等については充分の注意を払いましたから、競技上の要件は完備せることを誇りとする所であります。今後、尚、球場周辺数万坪の処女地には各種競技場を設け、京浜間に於る絶好の運動場となす考えでありますから、選手並にファン諸君は勿所皆様のご後援を願う」<sup>(27)</sup>とあり、野球場のみならず、安善町周辺に様々な競技場を設けるスポーツセンター構想が垣間見えることから、当初は物資及び従業員輸送を目的としたが、経営状況に臨機応変に対応しつつ、レジャー事業も視野に入れていたことがわかる。戦時体制下に至ると、球場は利用を禁止され、戦後は、製油所用地へと変貌している。

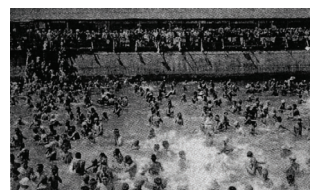


図1 新子安海水浴場  
(出典: 参考文献8)

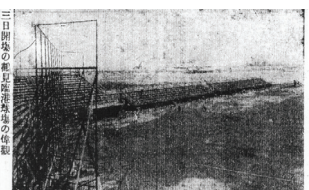


図2 臨港大野球場(出典:『横浜貿易新報』1931年4月31日付)

### 3. 横浜市京浜2区における工場福利厚生施設 (1950-2009)

戦後復興期には、京浜工業地帯は、レクリエーション機能が入る余地の少ない、純然たる生産空間として再興されており、辺縁部でも、農地や斜面地、区画整理事業用地等において急速な宅地化が進んでいたため、レクリエーション施設は専ら、福利厚生空間として各工場内部に整備された。その後、工業生産が増大が顕著となるに伴い、内包的な福利厚生空間は、工業地帯辺縁部へと滲みだし、公共空間整備の遅れていた同エリアで補完的な存在ともなった。

1958-2009 年における横浜市京浜2区 (神奈川区・鶴見区) に広がる京浜工業地帯内部立地企業の福利厚生施設<sup>(28)</sup>

(社宅・寮を除く)の変遷は、表2の通りである。1950年代の福利厚生施設は、①従業員の健康管理を行う病院診療所 (8件)、②従業員の社交の場である社員倶楽部 (15件)、③従業員のストレス解消や、企業スポーツを実施する運動施設 (8件) が中心である<sup>(29)</sup>。生協等の購買施設も見られるが、次第に縮小、もしくは工場内部に内在化してゆく。

高度経済成長期から成熟期へと向かう1974年には、福利厚生施設も38件から75件と、倍近く増加しており、周辺部での充実が見られる。福利厚生施設数のピークは89年 (89件) となっている<sup>(30)</sup> が、90年代以降には、こうした資産を維持し続けるほどの企業体力は失われ、福利厚生施設も手放さざるを得ない状況となった。特に、大規模グラウンドのほか、市街地のクラブ施設等も減少している。以下、レクリエーションに関わる福利厚生施設の変遷を示す。

#### 3.1 倶楽部・会館施設の展開 (労働組合・健保組合含む<sup>(31)</sup>)

企業の福利厚生文化における特徴的施設の一つに、倶楽部・会館施設がある。従業員の福利厚生、文化拠点、来賓の接待空間として利用され、文化・娯楽空間の少ない工業都市で重要な役割を果たす存在だが、横浜市京浜臨海部でも、各企業により多くの倶楽部・会館が設置されている<sup>(32)</sup>。1957-58年に倶楽部・会館は、横浜市京浜2区で15件存在しており、企業文化における倶楽部の重要性が確認できる。工業地帯の成長に伴い倶楽部・会館の数も増加し、1974年には京浜2区で約30か所となっているが、その後の経済状況の変化に伴い資産処分の対象として判断され、2004年には16か所と半減し、50年以上続いているのは、旭硝子京浜クラブ、三菱レイヨン厚生会館程度である。これらは、来客の接待空間として利用されるため、工業地帯に近接した市街地 (子安通、汐入町、生麦、鶴見町等)、あるいは、環境や格式を求め、工業地帯からさほど遠くない丘陵部 (神奈川区入江町、新子安、鶴見区寺谷、東寺尾) 等に立地している。また、こうした福利施設を設置できない中小企業や、埠頭に集積する企業の集团的福利厚生施設として、出田町ふ頭厚生センターや、神奈川運輸業健康保険組合健保会館 (現神奈川区青木町) 等も立地している。さらに近年では、機能融合による新たな施設も生まれている。AGC モノづくりセンター (鶴見区弁天町) には、研修・実験棟、宿泊施設に加え、厚生機能 (食堂、共同浴場、ホール) を内包した倶楽部 (京浜クラブハウス) が設置されている。

### 3.2 運動系施設の分布状況

企業の福利厚生においては、従業員の衛生健康の向上や従業員同士の結束力の強化を目的として、体育活動が奨励されることが多い。また、企業の運動クラブは、日本のスポーツ文化を牽引するまでに成熟している。そのため、企業の福利厚生施設として運動施設が多く整備されている。50年代を中心に、公共の運動施設も整備されたが、地形や宅地化の状況もあり、困難な中での整備であった (表5)。

#### 1) 丘陵地における総合運動施設の展開 (1970年代)

運動施設の立地傾向としては、50年代までは野球場やグラウンドが、従業員のレクリエーションの場として工場近くに立地していたが、既に70年代以降には他用途に転用され、これに代わり、工業地帯から離れた丘陵地へと立地場所を変えている。特に、横浜市京浜臨海部周辺は平坦地が少なく、また、平地も戦後の急速な宅地化によって密集市街地化しており、結果として総合運動場施設は、市街地から離れた丘陵台地に多く立地した。一部の施設では、工場従業員の福利厚生空間としてのみならず、各分野でトップクラスの実績を誇る運動部活動の拠点・練習場としても利用され、選手のほか、応援客も訪れる場所として、単なる福利厚生施設とはまた異なる価値を創出している。

#### 2) 暫定利用の小規模運動施設・広場 (1980年代)

企業が保有する不動産のうち、低未利用化した労務者住宅や工場等において、他用途への転用が進まない場合に、暫定的にグラウンド等として利用するケースも見受けられる。この場合、少ない年月で他用途へと移行する可能性が高い。80年代以降、工業地帯内部もしくは近接エリアにおいて、テニスコート等の小規模運動施設が増加し、2000年代には、再び他用途に転用している箇所が多く、低未利用地の暫定利用的側面が強いと考えられる。

#### 3) 運動施設の資産処分 (1990-2000年代)

近年では、運動施設の多くは売却され、マンション等への転用が進んでいる (2009年時、京浜工業地帯内部を除いた辺縁部で外部施設4件、内部施設2件のみ残存)。竣工当時、農地や丘陵地に立地した運動施設では、周辺部が徐々に宅地化した結果、高度利用が期待できる土地へと変化した点、近年の企業合理化の中で企業資産が処分対象となっている点、企業内運動部の休廃部の進展等が要因だと考えられる。また、中小規模の運動施設・グラウンド・テニスコート等も合理化対象であり、マンション等の他用途に転用されている。中には、生麦明神公園 (鶴見区) のように、運動施設跡地を行政の公共空間に再生した事例もある。

### 3.3 その他の福利厚生施設の分布状況

1) 売店・購買施設: 工業都市に特徴的な配給所・購買所は、横浜市京浜臨海部には目立って見られないが、大規模工場の内部に、各々社員食堂や各種売店を立地させている。

2) 文化・娯楽施設: 横浜市京浜臨海部では、企業による劇場等の文化施設の設置はあまり見られないが、工業地帯内部に企業独自の展示空間を展開している (後述)。

表2 横浜市区京浜2区における福利厚生施設数の変遷(社宅・寮等は除く)

| 年次      | 区    | 医療施設 | 診療所 | クラブ | 会館 | 厚生施設 | 教育研修系 | 購買施設 | 運動施設 | その他(表示施設含) | 合計 |
|---------|------|------|-----|-----|----|------|-------|------|------|------------|----|
| 1957-58 | 神奈川区 | 1    | 2   | 4   | 0  | 1    | 0     | 2    | 1    | 1          | 0  |
|         | 鶴見区  | 3    | 2   | 8   | 2  | 0    | 0     | 0    | 5    | 4          | 0  |
|         | 計    | 4    | 4   | 12  | 2  | 1    | 0     | 2    | 5    | 5          | 0  |
| 1974    | 神奈川区 | 1    | 1   | 7   | 2  | 2    | 1     | 3    | 2    | 4          | 0  |
|         | 鶴見区  | 3    | 5   | 10  | 3  | 0    | 3     | 0    | 3    | 12         | 1  |
|         | 計    | 4    | 6   | 17  | 10 | 2    | 4     | 3    | 5    | 16         | 1  |
| 1989    | 神奈川区 | 1    | 1   | 6   | 1  | 1    | 1     | 1    | 1    | 8          | 1  |
|         | 鶴見区  | 2    | 4   | 11  | 6  | 0    | 4     | 0    | 1    | 21         | 6  |
|         | 計    | 3    | 5   | 17  | 11 | 2    | 5     | 1    | 2    | 29         | 7  |
| 2004    | 神奈川区 | 1    | 1   | 3   | 3  | 2    | 4     | 1    | 7    | 4          | 1  |
|         | 鶴見区  | 2    | 4   | 6   | 6  | 2    | 2     | 0    | 11   | 4          | 5  |
|         | 計    | 3    | 5   | 9   | 7  | 3    | 6     | 1    | 18   | 8          | 6  |

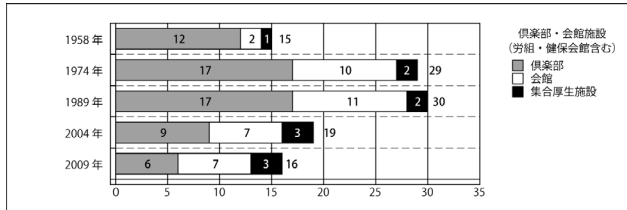


図3 倶楽部・会館施設の変遷(1958年-2009年)

表3 横浜市区京浜2区における倶楽部・会館施設一覧

| 施設  | 内外           | 区 | 町丁目※    | 名称※                  | 1958 | 1974 | 1989 | 2004 | 2009 |
|-----|--------------|---|---------|----------------------|------|------|------|------|------|
| クラブ | □            | 神 | 子安通二丁目  | 昭和電工横浜社員クラブ          | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|     | □            | 神 | 新子安     | 日本石油社員倶楽部            | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|     | □            | 神 | 新子安     | 日本石油社員倶楽部            | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 新子安     | 警務士済組合神奈川県保身警察倶楽部    | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 生麦町     | 日本鋼管鶴見倶楽部            | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 鶴見(豊崎)  | 日本石油工場鶴見クラブ          | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 鶴見(豊崎)  | 日本石油精製工場鶴見社員クラブ・クラブ  | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 栄町通四丁目  | 日本石油精製栄町社員広場+倶楽部     | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 鶴見町(別所) | 東芝花月クラブ              | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 尻子二丁目   | 東芝柳町工場従業員倶楽部さつき荘     | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 新子安     | 日本製粉クラブ              | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 沢渡      | 相模沢渡社員クラブ            | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 鶴見一丁目   | 東芝鶴見クラブ              | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 矢向五丁目   | 日本鉱業矢向倶楽部            | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 井天町     | 鶴見文化ハウス              | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 東寺尾中台   | 日東化学工業 クラブ日東東        | ○    | 未表   | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 鶴見一丁目   | 日本鋼管鶴見クラブ(ハウス)       | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|     | □            | 神 | 子安通二丁目  | 日産自動車クラブ             | ○    | ○    | ○    | ×    | ×    |
|     | □            | 神 | 入江町一丁目  | 日本石油精製横浜製油所倶楽部尚志寮    | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|     | □            | 神 | 入江町一丁目  | 昭和電工クラブ              | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 潮田三丁目   | 京三製作所京三クラブ           | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 寺谷二丁目   | 石川島播磨重工業鶴見山荘         | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 羽沢町     | 旭硝子クラブハウス            | ○    | ○    | 未表   | 未表   | 未表   |
|     | ■            | 神 | 鶴見一丁目   | 日本鉄造二見台クラブ           | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|     | □            | 神 | 小野町     | 日本鋼管小野町クラブ・社員クラブ     | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|     | □            | 神 | 新子安一丁目  | 日産クラブハウス(日産会館別館)     | ○    | ○    | ○※1  | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 寺谷二丁目   | 鉦鉦鉄工業鉦鉦鶴見クラブ         | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 松ヶ丘     | NTT神奈川倶楽部            | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|     | □            | 神 | 汐入町三丁目  | 旭硝子京浜クラブ             | ○    | ○    | ○※2  | ○※2  | ○※2  |
|     | □            | 神 | 子安通二丁目  | 日本ビクター健康組合大和荘・クラブ    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
|     | ■            | 神 | 豊崎町     | 東芝鶴見クラブ              | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
|     | ■            | 神 | 東寺尾一丁目  | 横浜東寺尾倶楽部             | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
|     | ■            | 神 | 東寺尾東台   | 住友大隈セメント寺尾クラブ        | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
|     | ■            | 神 | 寺谷二丁目   | 日清製粉鶴見工場豊崎クラブ        | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
|     | 小計           |   |         |                      | 12   | 17   | 17   | 9    | 6    |
|     | 新設数          |   |         |                      | △12  | △12  | △8   | △1   | 0    |
|     | 消失数          |   |         |                      | -    | ▽7   | ▽8   | ▽9   | ▽3   |
| 会館  | ■            | 神 | 鶴見町(下町) | 京浜急行労働会館             | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|     | □            | 神 | 金港町     | 三菱重工保健会館             | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 大黒町     | 日産弘済会                | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|     | □            | 神 | 神奈川本町   | 日本鋼管健康保険組合浅野レストハウス   | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 鶴見一丁目   | 東亜合成化学工業鶴見保健会館       | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 市場上町    | 不二家厚生会館(不二家鶴見工場厚生会館) | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|     | □            | 神 | 新子安一丁目  | 日産会館                 | ○    | ○    | ○    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 平安町二丁目  | 京三製作所本社工場3号棟厚生会館     | ○    | ○    | ○    | 未表   | 未表   |
|     | ■            | 神 | 鶴見二丁目   | 東芝健康会館               | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
|     | □            | 神 | 生麦三丁目   | 三菱レイヨン厚生会館(明神倶楽部)    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
|     | □            | 神 | 子安通三丁目  | 日本石油精製厚生会館           | ○    | ○    | ○    | ×    | ×    |
|     | ■            | 神 | 守屋町三丁目  | 日本ビクター-勤労(男)会館       | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
|     | ■            | 神 | 井天町     | JFEエンジニアリング健康保険組合鶴見  | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
|     | ■            | 神 | 鶴見一丁目   | 健康会館シーフォール           | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
|     | □            | 神 | 子安通二丁目  | 日本ビクター健康会館(大和荘)      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
|     | □            | 神 | 新子安一丁目  | 日本ウェルフェア横浜           | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
|     | □            | 神 | 入江一丁目   | 日本ビクターけんぽ会館          | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
|     | 小計           |   |         |                      | 2    | 10   | 11   | 7    | 7    |
|     | 新設数          |   |         |                      | △2   | △9   | △3   | 0    | △2   |
|     | 消失数          |   |         |                      | -    | ▽1   | ▽2   | ▽4   | ▽2   |
| 厚生  | ■            | 神 | 青木町     | 神奈川運輸健康保険組合健康会館      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
|     | ■            | 神 | 出田町     | 横浜市港南区出田町埠頭港湾厚生センター  | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
|     | ■            | 神 | 大黒頭     | 大黒頭厚生センター            | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
|     | 小計           |   |         |                      | 1    | 2    | 2    | 3    | 3    |
|     | 新設数          |   |         |                      | △1   | △1   | 0    | △1   | 0    |
|     | 消失数          |   |         |                      | -    | 0    | 0    | 0    | 0    |
|     | 合計(京浜2区)     |   |         |                      | 15   | 29   | 30   | 19   | 16   |
|     | 合計(京浜工業地帯内部) |   |         |                      | 1    | 4    | 2    | 2    | 2    |
|     | 新設数          |   |         |                      | △3   | △5   | △5   | △1   | △1   |
|     | 消失数          |   |         |                      | 0    | ▽1   | 0    | ▽5   | ▽1   |

注1) 表2・3・4、図3・4は、いずれも、住宅地図(補注(1))を基に作成  
注2) 表3・4の内外欄: ■: 京浜工業地帯内部、□: 京浜工業地帯近接部、無印: その他エリア  
注3) 表3・4において、○: 初出、○: 存在確認、×: 消失、他: 転用、未表: 未表示(用途不明)、●: 統合、●※: 会館・体育館等の複合施設、(●): 統合によりカウントせず、×\*: 他: 福利厚生施設(寮)に転用、○※1: 横浜マリノスクラブハウス、×※2: 事務棟として利用、△※3: 住宅地図に記載も現地踏査で未利用と判断、△※4: 所有者不明、○※5: 雨天練習場  
注4) ※※: 町丁目・名称は、最新の存在確認時における名称を用いる

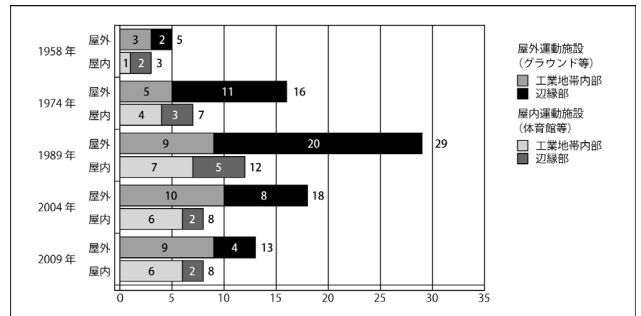


図4 運動施設の変遷(1958年-2009年)

表4 横浜市区京浜2区における運動施設一覧

| 施設     | 内外           | 区 | 町丁目※   | 名称※                         | 1958 | 1974 | 1989 | 2004 | 2009 |
|--------|--------------|---|--------|-----------------------------|------|------|------|------|------|
| 屋外運動施設 | □            | 神 | 金港町    | (三菱)グラウンド                   | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 小野町    | 旭硝子鶴見工場グラウンド                | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 寛政町    | 富士電機製造グラウンド                 | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 井天町    | 日本鋼管鶴見製鉄所運動場                | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 出田町    | テニスコート                      | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 宝町     | 日産自動車テニスコート                 | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 生麦二丁目  | 日本石油精製野球場                   | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 鶴見二丁目  | 東芝鶴見病院テニスコート                | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 元町二丁目  | 森永製菓健康組合鶴見総合グラウンド           | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|        | □            | 神 | 汐入町三丁目 | 旭硝子弓道場                      | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 末広町一丁目 | 東京ガステニスコート                  | ○    | ×    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 汐入町二丁目 | 日本鋼管京浜製鉄所平安球場・雨天練習場         | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 獅子ヶ谷町  | 日本鋼管京浜製鉄所獅子ヶ谷総合運動場          | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 鶴見一丁目  | 東京ガスファミリーセンター三ツ池苑           | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 東寺尾中台  | 東芝タービン吹上グラウンド・テニスコート        | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 東寺尾中台  | 東芝女子VB部合宿所グラウンド             | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | □            | 神 | 汐入町二丁目 | (旭硝子)テニスコート                 | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | □            | 神 | 汐入町二丁目 | 旭硝子健康保険プール                  | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 羽沢町    | 横浜旭硝子運動場                    | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | □            | 神 | 新子安一丁目 | 日本石油精製テニスコート                | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 新浦島町二  | (日本農産工業跡)テニスコート+グラウンド       | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 獅子ヶ谷町  | 日産自動車獅子ヶ谷サッカー場+クラブハウス       | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 馬場二丁目  | 鶴見デニスガーデン+テニスコート            | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 生麦二丁目  | 旭硝子京浜生麦グラウンド                | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 生麦三丁目  | キリンビール横浜工場テニスコート            | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | □            | 神 | 小野町    | 日本鋼管グラウンド                   | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | □            | 神 | 小野町    | 鶴見青森グラウンド                   | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | □            | 神 | 小野町    | 鶴見青森テニスコート                  | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 小野町    | 日本鋼管鶴見製作所小野町テニスコート          | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 安善町一丁目 | 東京ガステニスコート                  | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 平安町一丁目 | 京浜デニスカラテニスコート・クラブ           | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 吉田町    | 全日空総合グラウンド                  | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 新子安一丁目 | 日産新子安総合グラウンド                | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 白幡町    | 東京電力子安変電所テニスコート             | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 白幡町    | 東京電力子安変電所グラウンド              | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | □            | 神 | 入江一丁目  | ビクター(テクノカレッジ)テニスコート         | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 大黒頭    | 日本運輸大黒埠頭保税蔵置場テニスコート         | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 守屋町四丁目 | 新日本石油精製テニスコート1969-          | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 上末吉五丁目 | 東芝総合グラウンド(陸上競技・野球場・テニスコート他) | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 守屋町二丁目 | (マツダ)テニスコート                 | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 千代町一丁目 | レストランディベア+東神奈川ゴルフジョイ        | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 尻子二丁目  | 東京電力尻子グラウンド・テニスコート          | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 汐入町二丁目 | 旭硝子健康保険組合旭台テニスコート           | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
| 屋内運動施設 | ■            | 神 | 生麦一丁目  | キリンビールグラウンド・テニスコート          | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 大黒頭    | 東京電力テニスコート(社有地グラウンド)        | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 高島台    | ポーラ横浜研究所グラウンド               | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 大黒頭    | 東京電力トウニー横浜野球場               | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 末広町一丁目 | 東京ガス末広町グラウンド                | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 末広町二丁目 | オカムラ内テニスコート                 | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | ■            | 神 | 末広町二丁目 | 東芝京浜ベイグラウンド                 | ○    | ○    | ×    | ×    | ×    |
|        | 合計(京浜2区)     |   |        |                             | 5    | 16   | 29   | 18   | 13   |
|        | 新設数          |   |        |                             | △5   | △15  | △20  | △7   | △0   |
|        | 消失数          |   |        |                             | 0    | ▽4   | ▽7   | ▽18  | ▽5   |
| 屋内運動施設 | 合計(京浜工業地帯内部) |   |        |                             | 3    | 5    | 9    | 10   | 9    |
|        | 新設数          |   |        |                             | △3   | △5   | △8   | △5   | △0   |
|        | 消失数          |   |        |                             | 0    | ▽3   | △4   | ▽4   | ▽1   |
|        | 合計(京浜工業地帯内部) |   |        |                             | 3    | 7    | 12   | 8    | 8    |
|        | 新設数          |   |        |                             | △3   | △5   | △5   | △1   | △1   |
|        | 消失数          |   |        |                             | 0    | ▽1   | 0    | ▽5   | ▽1   |
|        | 合計(京浜工業地帯内部) |   |        |                             | 1    | 4    | 7    | 6    | 6    |
|        | 新設数          |   |        |                             | △1   | △3   | △4   | △1   | 0    |
|        | 消失数          |   |        |                             | 0    | 0    | 0    | ▽2   | 0    |
|        | 合計(京浜工業地帯内部) |   |        |                             | 1    | 4    | 7    | 6    | 6    |



#### 4. 工業地帯内部のレクリエーション施設 (1950-2009)

工業地帯内部の動向を見ても、戦後は、急速な戦災復興の中で、大部分が工業空間として占められた。その多くは、工業系企業の土地所有であり、レクリエーション施設も工業系企業の福利厚生空間が中心である。特に、交通手段も未発達で、店舗や公共施設も少ない工業地帯内部では、従業員の就業時の休息、慰楽、支援空間が重視され、運動施設、食堂等が多い。全体的には、横浜市京浜2区に比べて工業地帯内部の施設はさほど減少していない(図3・4・5)。

##### 4.1 運動系施設

大手企業は、職員の福利厚生、娯楽、意気高揚の手段としてスポーツを活用し、運動施設を積極的に整備しているが、工場従業員の作業間の余暇、健康保健を目的とした運動施設も、工場内に多く設置している。ここ50年間で横浜市京浜2区の運動施設は、ピーク時の半分以上に減少したのに対して、工業地帯内部の減少率は低く、現在でも大小合わせて9件(屋外施設)、6件(屋内施設)存在している。

##### 1) 屋外運動施設(グラウンド等)の状況

京浜工業地帯内部の屋外運動施設に関しては、50年代に見られた、弁天町(旧日本鋼管)、寛政町(富士電機)のグラウンド等は、いずれも早い段階で転用されている。その後、大きく増加することはないが、現在では、東京電力トウニー・ヨコハマ内グラウンド(大黒町)や東京ガス末広町グラウンド(末広町)等、公式試合も行える専用野球場が見られ、いずれも、工場関係者以外にも利用されている。立地としては、直接外部からアクセスできる場合もあるが、基本的には敷地内部からの利用となる。東京電力では、見学施設も内包しており、関係者以外も敷地内部に入ることが可能である。その他、工場従業員用グラウンドや、各工場敷地内にテニスコート等が見られる。

##### 2) 屋内運動施設(体育館等)の状況

屋内運動施設は、2009年時点で6件見られ(表4)、いずれも建設以来継続して立地している。これらは、工場に隣接(もしくは敷地内)・近接しており、就業後の利用が容易な場所にあると同時に、外部アクセスも容易な立地のものが多い。また、高齢者施設「ふれーゆ」(鶴見区末広町)には、清掃工場の排熱による温水プールが併設されている。

#### 4.2 慰楽系施設(従業員支援・文化・公園施設等)

##### 1) 従業員支援系施設(飲食施設・休憩施設等)

社員食堂等の飲食施設は、大規模工場の多くで、敷地内に個別に確保されているほか、近年の研究開発施設(リーディングベンチャープラザ、理化学研究所、横浜スーパーファクトリー)も独自に飲食空間を設けている。一方、企業自身は提供しなくても、数軒程度の小規模店舗が集積する地区(瑞穂埠頭付近、恵比須町中央、大黒町高速道路下、守屋町三丁目、弁天町駅前等)も見られる。工業団地(大黒町インダストリアルパーク)や、工業地帯内の高層業務棟(新浦島町)では、低層部に飲食店舗等が立地している。

##### 2) 文化施設としての展示空間の展開

京浜工業地帯内部では、1990年代以降、企業の技術や製品を一般社会や地域に発信する企業展示空間が増加しており、さとうのふるさと館[1997-2004年、塩水港製糖：鶴見区大黒町]、キリン・ビアビレッジ[1991年-、キリンビール：鶴見区生麦]、トウニー・ヨコハマ[1997年-、東京電力：鶴見区大黒町]、ワンダーシップ環境エネルギー館[1998年-、東京ガス：鶴見区末広町一丁目]、日産エンジン博物館[2003年-、日産自動車：神奈川区宝町]等、企業文化の発信拠点として、いずれも一般開放されている。

##### 3) 公園空間

工業地帯内部の貴重な公園として利用されている入船公園(鶴見区弁天町)は、旧日本鋼管(現JFEスチール)の工場跡地である。また、JR鶴見線海芝浦駅の脇に東芝により提供された海芝公園や、貨物線廃線跡地を利用した貨物線の森緑道(鶴見区大黒町)など、企業協力や工業用地を利用した公共空間(公園)整備が行われている。

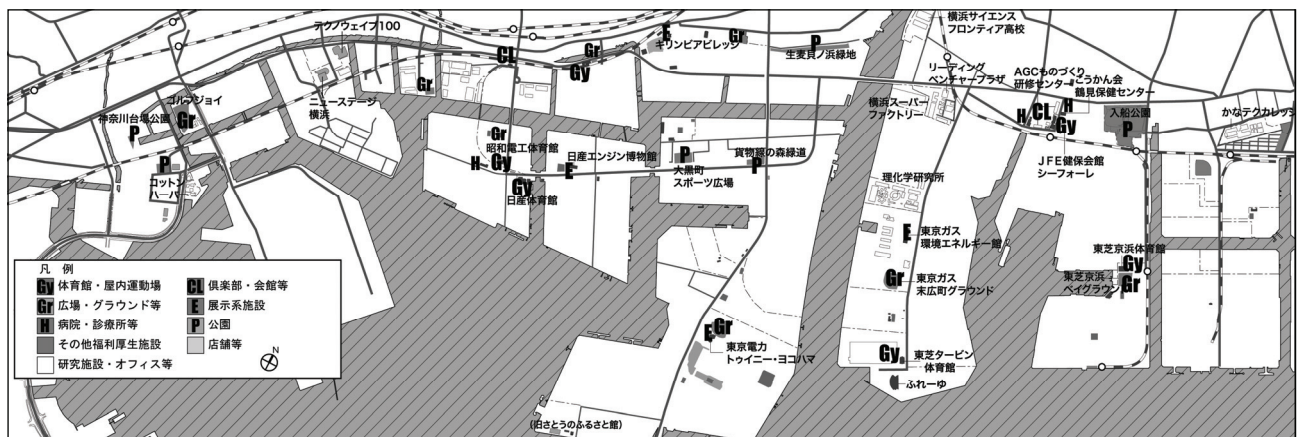
#### 5. 総合的考察

このように、戦前期には工業空間とレジャー空間とが共存していた横浜市京浜臨海部では、戦後以降、企業により個別に工業空間内部に従業員向けレクリエーション空間が

表5 横浜市京浜2区における主な公共の運動施設整備

| 運動施設の種別   | 区  | 名称【設置年：1900年代】             | 区  | 名称【設置年：1900年代】               |
|-----------|----|----------------------------|----|------------------------------|
| プール       | 鶴見 | 入船公園【56】、岸谷公園【36】、平安公園【72】 | 鶴見 | 入江町公園【59】、六角橋公園【37】          |
| 野球場       | 鶴見 | 入船公園【56】、入船公園【83】          | 鶴見 | 神の木公園【57】、台町公園【59】、三ツ沢公園【59】 |
| テニスコート    | 鶴見 | 入船公園【59】、入船公園【85】          | 鶴見 | 三ツ沢公園【48】                    |
| 陸上競技場・球技場 | 鶴見 |                            | 鶴見 | 三ツ沢公園【51】、陸上競技場55・球技場        |
| 体育館       | 鶴見 | 鶴見スポーツセンター                 | 鶴見 | 平沼記念体育館【70】、神奈川スポーツセンター      |

その他、県立三ツ沢公園【公園開設は1959年、野球場・プール・テニスコート等】、ふれーゆ内プール【96】



確保され、これが、徐々に辺縁部に拡散してゆくとともに、近年の経済状況の中で、再び辺縁部の施設は消失し、逆に、内部の福利厚生空間は残存するという変遷が明らかになった。その一方で、以下の課題と可能性を見ることができる。

### 1) 新たな層出現に伴う福利空間の必要性

近年の横浜市京浜臨海部では、研究者や学生、オフィス従業員など、従来の職工とは異なるタイプの従業員が増加しており、さらに、外国人研究者や来訪者など、従業員数には表れない昼間人口の増加も予想される。工業専用地域、臨港地区（工業港区）を中心とした現状の土地利用規制の下では、一定以上の商業施設が立地できない区域も多い<sup>(33)</sup>。今後、研究開発機能化の進展に伴い、福利厚生施設の不足が予想され、状況に応じた制限の弾力的運用が課題となる。

### 2) 工業地帯内部の福利厚生施設利用の増加

京浜辺縁部では、ここ 20 年で急速に福利厚生空間が姿を消しており、主に、工業系企業の福利厚生施設から他の民間再開発へと移行するケースが多い。これに対して、工業地帯内部の福利厚生施設は、周辺ほど顕著に減少していない。内部は当面、産業系土地利用の継続が予想される上、立地や地価を考えると売却は困難であり、結果として施設運営が継続されている。そのため、福利厚生施設が、余暇の適地として立地した丘陵部を追われ、再び生産空間である工業地帯内部において休日も含めて利用されるという逆転現象が起き始めている。特に、丘陵地の多い辺縁部では、以前から大規模外部空間の整備が困難であり<sup>(34)</sup>、また、レクリエーションへのニーズも団体から個人化へと向かう中で、工業地帯内部の福利厚生施設のコンパクトな再利用や弾力的運用の検討により、市民のニーズにも対応した施設の市民利用<sup>(35)</sup>や、これに伴う臨海部の市民開放が期待される。

### 3) 施設連携と役割分担による効率化と開放可能性

原則、福利厚生施設は、各企業が個別に運営しているが、各々がピークに合わせて過剰に保持しており、稼働率は必ずしも高くない施設であるため、各福利厚生施設での役割分担や共有化など、エリア内での効率的な福利厚生機能の共同運用システムの構築が求められるとともに、これに伴い、上記のような施設の市民利用・開放の可能性も見えてくる。周辺には、研究開発施設が増加している状況もあり、こうした工業地帯におけるレクリエーション空間のあり方を通じた産業空間再編の新たな可能性が期待される。

#### 【補註】

- (1) ウォータフロント再編の事例としては、関東では、葛西臨海公園（江戸川区）、みなとみらい 21 地区臨港パーク（横浜市）や海の公園（横浜市）、関西では、尼崎 21 世紀の森（尼崎市）、共生の森（堺市）等が見られる。
- (2) 本稿におけるレクリエーション施設の対象は、①工場従業員の慰楽を目的とした「福利厚生施設」（社宅・寮などの生活施設は除く）、及び、②従業員のみならず市民一般も対象とした「レジャー施設」とする。
- (3) 本稿では、横浜市京浜 2 区（鶴見区神奈川区）の臨海部を横浜市京浜臨海部とし、これらを含む横浜市・川崎市臨海部を指す場合、京浜臨海部と記す。特に、3・4 章では、横浜市京浜臨海部を中心として論じる。
- (4) 本稿では、京浜工業地帯内部を、横浜市京浜 2 区のうち、既成市街地から分断された、首都高速神奈川 1 号横羽線以南のエリアと定義する。
- (5) 例えば、篠村裕・瀬口哲夫（1992）「企業都市における都市施設整備に関する研究-新居浜市を研究対象として-」（都市計画論文集第 27 号、pp.223-228、日本都市計画学会）などがある。
- (6) 砂本彦彦（1999）「鷺尾勘解州と新居浜・住友山田団地について」、（日

- 本建築学会計画系論文集 519 号、pp.271-278、日本建築学会）などがある。
- (7) 例えば、藤村裕・篠村裕・瀬口哲夫（1994）「企業都市における中核企業の事業縮小に伴う都市整備に関する研究-釜石市を研究対象として-」（日本建築学会中国支部研究報告集、pp. 429-432、日本建築学会）など。
  - (8) 社宅研究会（2009）『社宅街』、学芸出版社
  - (9) 小林延秀（1984）「京浜臨海工業地帯後背市街地に於ける給与住宅の変容と市街地整備上の課題について-川崎区を中心に-」、都市計画論文集第 19 号、pp. 133-138、日本都市計画学会
  - (10) 小林有吾（2005）「都市と企業の関係性に着目した企業住宅の変遷と現代的意義に関する研究」、東京大学修士論文
  - (11) 野原卓（2006）「大規模臨海工業地帯における土地利用現況とその変容過程に関する研究-京浜臨海部の機能転換に見られる都市空間としての質的变化と混在化の動向-」、都市計画学会論文集第 41 号-3、pp. 469-474、日本都市計画学会
  - (12) 使用した住宅地図は、以下の通り。『神奈川区明細地図 昭和 33 年度版』（1958、経済地図社）、『鶴見区明細地図昭和 32 年度版』（1957、経済地図社）、『神奈川区明細地図 49 年度版』（1974、経済地図社）、『鶴見区明細地図 49 年度版』（1974、経済地図社）、『横浜 神奈川区住宅地図平成 2 年度版』（1989、刊広社）、『横浜 鶴見区住宅地図昭和 64 年度版』（1989、刊広社）、『ゼンリン住宅地図 200404 横浜市 2 神奈川区』（2004、ゼンリン）、『ゼンリン住宅地図 200405 横浜市 1 鶴見区』（2004、ゼンリン）、『ゼンリン住宅地図 200905 横浜市神奈川区』（2009、ゼンリン）、『ゼンリン住宅地図 200904 横浜市鶴見区』（2009、ゼンリン）
  - (13) 戦前期にも、先行立地企業により、すでに福利厚生施設が設置されていたが、従業員の慰楽以上に、生産活動における安全衛生（病院診療所・研修教育（青年学校等）・生活支援（購買施設等）が中心であった。
  - (14) それまで、川崎大師への交通手段は、人力車が徒歩のみであった。
  - (15) さらにそれ以前の名称は、「川崎電気鉄道株式会社」（1896 年）である。
  - (16) 沿線の梅林をみる「特別立立列車」も運行された（参考文献 4）、p49。
  - (17) その後、京浜電気鉄道は、湘南電気鉄道とも合併して京浜急行電鉄となるが、湘南電気鉄道の路線部分においても、金沢八景や湘南逗子など、風光明媚な景勝地を巡る性格を持っていた（参考文献 4）。
  - (18) 『京浜遊覧案内』（1910、運嫁龍水）での郊外生活のすすめや、生麦分譲地等の住宅地開発、「大横浜土地案内」（1931、横浜土地協会）における京浜 2 区での 11 か所の住宅地紹介等に郊外住宅地化の様子がみられる。
  - (19) 参考文献 8）、p30
  - (20) 当時は、川崎駅から浜川崎駅までの官営鉄道貨物支線のみであった。
  - (21) 発起人は、浅野總一郎、大川平二郎（日本鋼管社長）、白石元治郎（同）、岩原謙三（芝浦製作所社長）、正田貞一郎（日新製粉社長）、岡和、渡辺嘉一（工学博士）の七名であった。
  - (22) 鶴見臨港鉄道旅客化に向けては、それまで同地の通勤を担っていた並行路線である海岸電気軌道が反対を表明していたが、その後、鶴見臨港鉄道は、海岸電気軌道を買収した。
  - (23) 参考文献 9）、pp. 60-65、及び、参考文献 2）、p515
  - (24) 参考文献 9）、p60
  - (25) 参考文献 10）、pp. 28-37
  - (26) 参考文献 9）、p62 及び p92
  - (27) 鶴見臨港鉄道株式会社庶務係長の言葉として掲載されている。
  - (28) ここでの福利厚生施設には、レクリエーション施設の位置づけを示すため、医療・教育・購買施設等も含めたものとする（社宅・寮等を除く）。
  - (29) これらの施設は、多くが 50 年間持続せず、他用途に転用されている。
  - (30) オイルショック後、企業の生産力は一時停滞するが、福利厚生施設は増加している。その要因としては、①全体数も減少しても従業員がいれば福利厚生は必要となる点、②グラウンド等は、建築物を建設しなくても利用可能であり、リザーブ用地としても有用な点、③企業資産としてストックする意思が働いた点などが考えられる。
  - (31) 労働組合・健康保険組合による福利厚生・健康保険目的の会館も含む。
  - (32) 例えば、日本鋼管だけでも、1982 年の時点で、京浜 2 区に倶楽部等が 4 件、保健会館等が 3 件設けられている（参考文献 7）。
  - (33) 横浜市臨港地区（工業港区）では、150 m<sup>2</sup>以上の店舗は認められない。
  - (34) 例えば、神奈川区では、試合の可能な公共野球場は、三ツ沢公園野球場、台町公園野球場、神ノ木公園野球場程度（いずれも軟式）である。
  - (35) 東京電力大黒グラウンドでは市民利用（抽選・有料）も行われている。

#### 【引用・参考文献】

- 1) 神奈川区誌編さん刊行委員会（1977）『神奈川区誌』、神奈川区誌編さん刊行委員会
- 2) 鶴見区史編集委員会（1984）『鶴見区史』、鶴見区史刊行委員会
- 3) 京浜急行電鉄株式会社 杉本寛一（1949）『京浜電気鉄道沿革史』、京浜急行電鉄株式会社
- 4) 京浜急行電鉄株式会社（1999）『京浜急行百年史』、京浜急行電鉄株式会社
- 5) 東亜建設工業株式会社（1989）『東京湾埋立物語』、東亜建設工業株式会社
- 6) 日本鋼管株式会社（1942）『日本鋼管三十年史』、日本鋼管株式会社
- 7) 日本鋼管株式会社七十年史編集委員会（1982）『日本鋼管株式会社七十年史』、日本鋼管株式会社
- 8) 岩田忠利（2001）『かながわの昔と今第三巻神奈川区編』、「とうよこ沿線」編集室
- 9) サトウマコト（2005）『鶴見線物語』、株式会社 230 クラブ
- 10) 岡田昌彰（2003）『テクノスケープ 同化と異化の景観論』、鹿島出版会